

第六回講演大會及總會順序

第一日 四月三日 (祭日金曜日) 午前九時開會

會 場 東京市麴町區丸の内三丁目四番地

帝國鐵道協會々館 講 堂 (三階の四號)

講演會 午前之部

演題及講演者名

- | | | | 時 | 時 |
|--------------------------|--------------|-------|-------------|-----------|
| 1) 開會の辭 | 昭和五年中製鐵鋼業の趨勢 | (10分) | 午前 | 9.00—9.10 |
| | 東京帝國大學教授 | | | |
| | 日本鐵鋼協會々長 | 工學博士 | 俵 | 國 一 君 |
| 2) 古代エジプトに於ける金屬合金の加工 | (25分) | 午前 | 9.15—9.40 | |
| | 大阪工業大學講師 | 戸 | 波 | 親 平 君 |
| 3) 鑄鐵の凝固時に於ける瓦斯と黒鉛組織 | (10分) | 午前 | 9.45—9.55 | |
| | 東京帝國大學助教授 | 工學士 | 田 | 中 清 治 君 |
| 4) 鐵、セメントイト、硫化鐵系平衡狀態圖に就て | (25分) | 午前 | 10.00—10.25 | |
| | 東北帝國大學助教授 | 工學士 | 佐 | 藤 知 雄 君 |

休 憩 (十分間)

- | | | | | |
|-----------------------------|--------------|------|-------------|-----------|
| 5) 鐵鋼中コバルトの存在に於けるニッケルの定量法 | (25分) | 午前 | 10.40—11.05 | |
| | 陸軍科學研究所々員 | 工學士 | 金 | 子 吉 雄 君 |
| 6) 海水に對して不銹性なる新輕合金クルミンに就て | (25分) | 午前 | 11.10—11.35 | |
| | 三菱造船株式會社研究所員 | 工學博士 | 飯 | 高 一 郎 君 |
| 7) アルミニウム輕合金に及ぼす種々改良劑の影響に就て | (25分) | 午前 | 11.40—午後 | 12.05 |
| | 神戸製鋼所技師 | 工學士 | 伊 | 丹 榮 一 郎 君 |

晝 食 午後 0 時 10 分—午後 1 時

4.10-4.35 (25分)	12) 久慈海綿鐵よりバナヂウム鋼の製造 大阪工業試験所々員 工學士 上野健二郎君	18) 鐵、ニッケル、クロム (Fe-Ni-Cr) 三元合金の磁氣的並に電氣的性質に 就て 株式會社電熱線工場技師 工學士 松永陽之助君
4.40-5.05 (25分)	13) 最近の鐵鑄物を論じ各地鉄鐵に對する 批判選擇に及ぶ 三菱造船株式會社神戸造船所技師 百々 初男君	19) 防楯鋼の研究 東北帝國大學教授 金屬材料研究所々長理學博士 本多光太郎君 理學士 竹前 源藏君 工學士 渡邊 直雄君
<p>備考</p> <p>○各講演間の時間約 5 分を討論及び次の講演の準備に充つ</p> <p>○講演者多數に上りし爲め午遺憾午後は二部に分つことにしたり</p> <p>○午後第一部及第二部の講演は豫定時間以内に終了することあるも其間休憩し其開始時間を規定通り嚴守する事</p>		

懇親會 午後六時開會

會場 帝國鐵道協會々館 食堂

第二日 四月四日 土曜日

見學順序 出席會員は出席章を佩用し午前九時前に東京計器製作所の前に參集のこと

見學工場名	見學時間	備考
1. 株式會社東京計器製作所	午前9時—午前10時	京濱電車 出村下車 徒歩約3分
2. 淺野造船所 鶴見製鐵所	午前11時—正午0時	京濱電車 出村にて乗車鶴見總持寺にて海岸線へ乗換へ入船(芝浦製作所前)下車、此間約50分(約10分徒歩)

晝食 正午0時—午後0時30分 淺野製鐵所に於て

3. 芝浦製作所	午後1時—午後2時	淺野製鐵所より徒歩約15分
4. 東京瓦斯鶴見工場	午後2時40分— 午後3時30分	芝浦製作所より徒歩約25分

第三日 四月五日 日曜日

日本鐵鋼協會第五回研究部會 午前9時より鑄物研究部會及砂鐵研究部

會開會其詳細は追つて發表す